

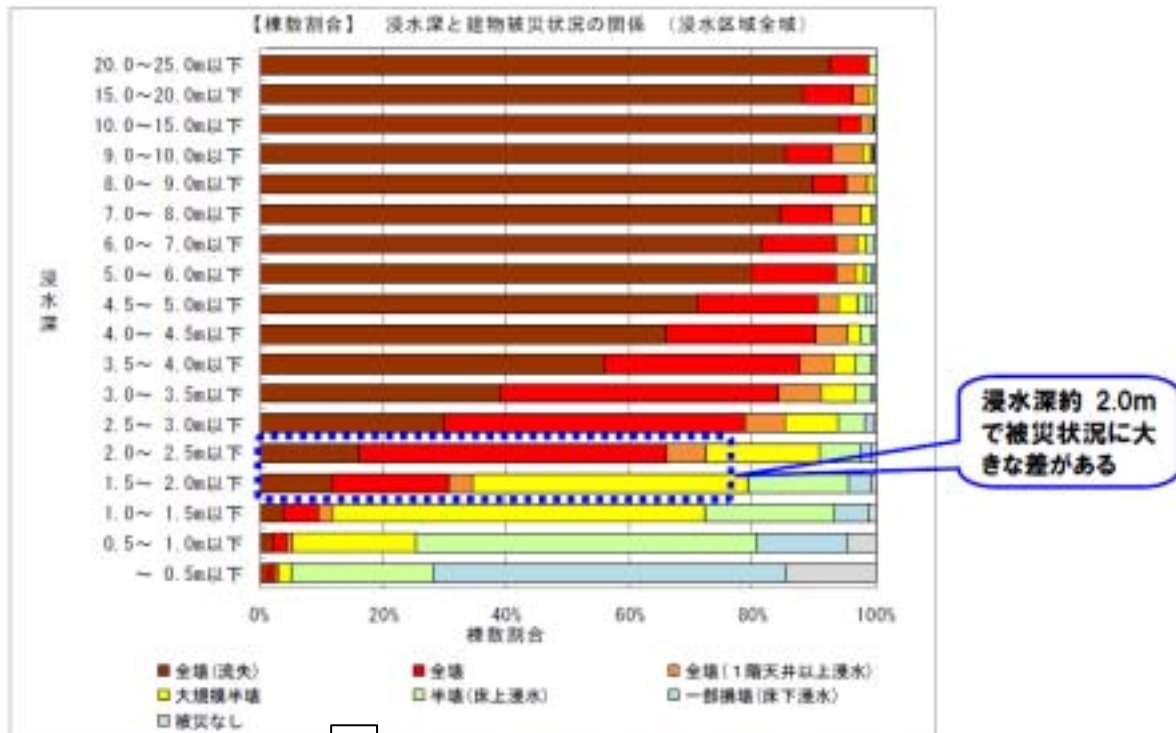
浸水深と建物被害の関係 について

(1) 今回の津波被害における浸水深と建物被害の状況

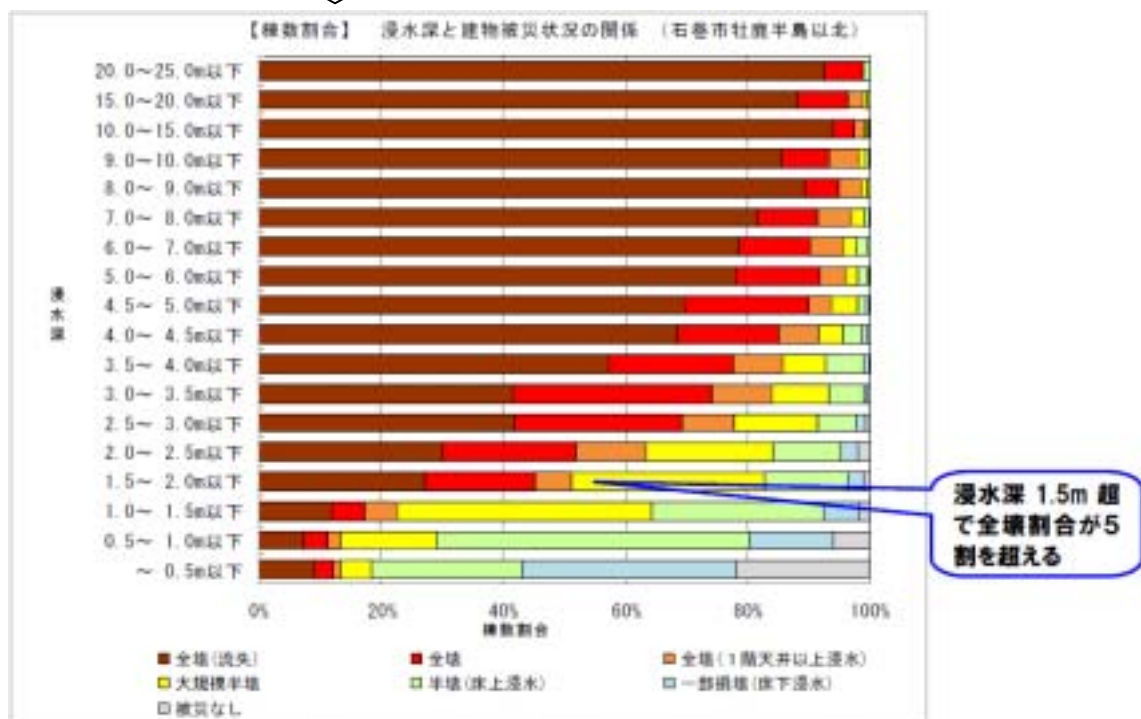
(東日本大震災による被災現況調査結果 H23.8.4 より)

被災地域全体の浸水深と建物被害の関係

浸水深 2 m 前後で被災状況に大きな差があり、浸水深 2 m 以下の場合には建物が全壊となる割合は大幅に低下する。

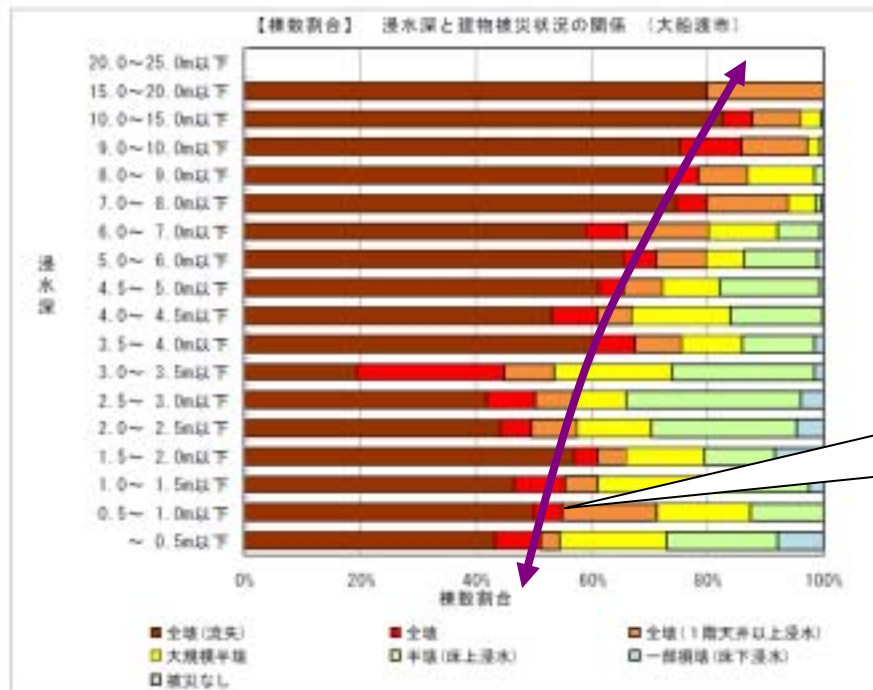


三陸リアス式海岸のみの集計



大船渡市内での浸水深と建物被害の関係

被災地域全体では浸水深 2 m 以下で全壊率が減少するが、大船渡市では一定の値を境にした急激な全壊割合の低下は見られず、0.5m以下の浸水深でも 5 割を超える建物が全壊している。



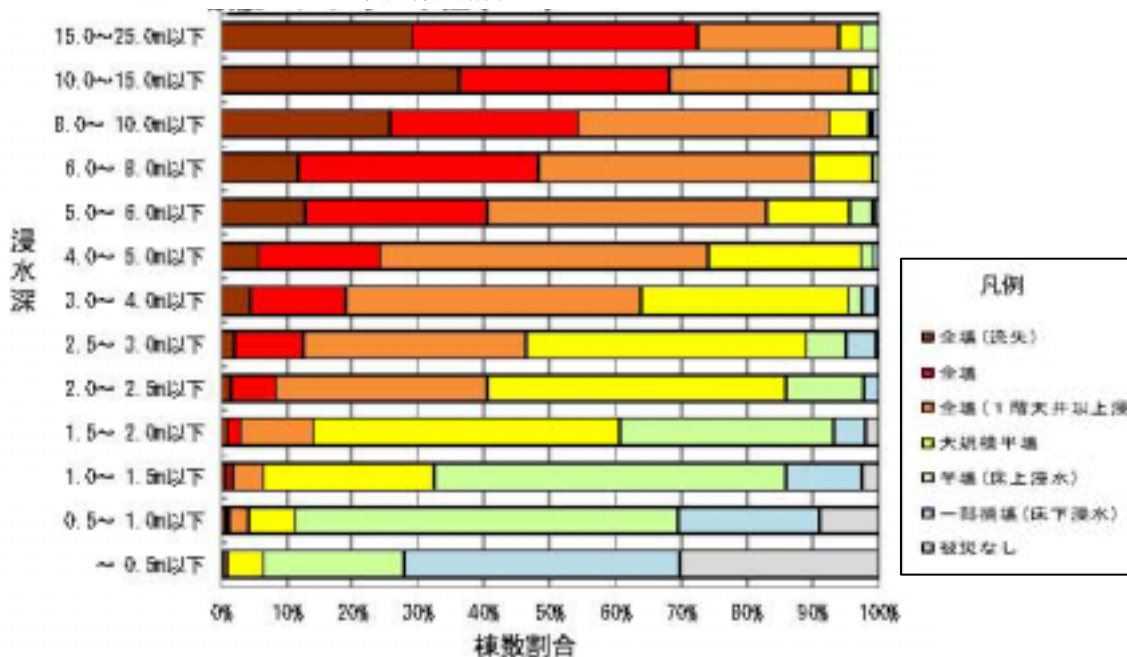
(2) 建築構造と被害状況

(東日本大震災による被災現況調査結果第2次報告 H23.10.4 より)

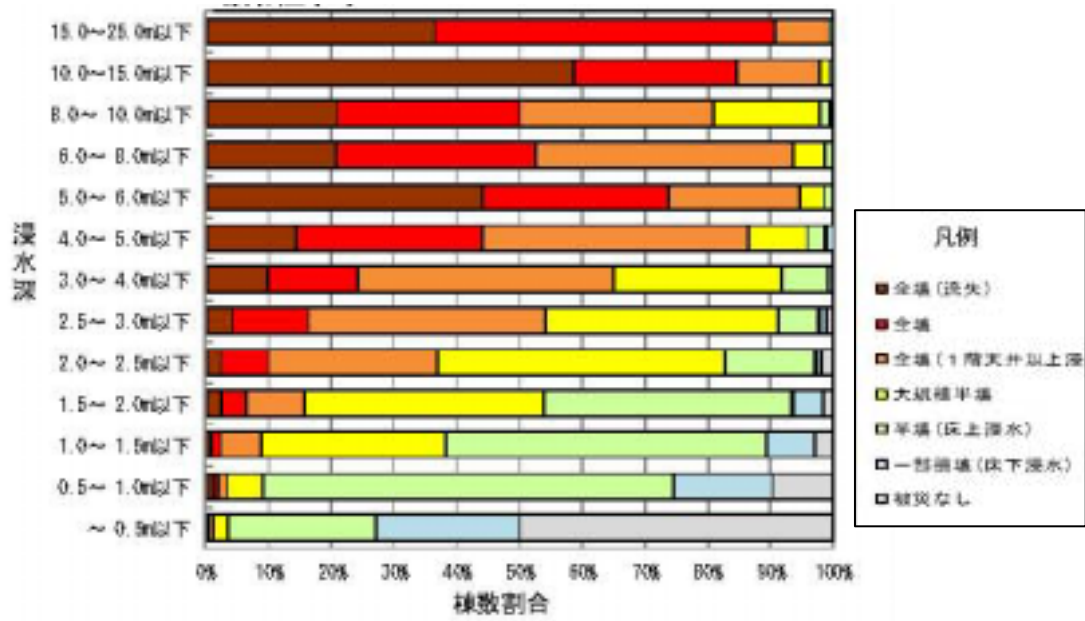
浸水深と建物被災状況の関係を建物構造別にみると、鉄筋コンクリート造、鉄骨造は浸水深 2 m 以下で全壊割合が 20% 以下となり、浸水深 1 m 以下であれば数パーセントまで低下する。

また、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の場合、2 m 以下の浸水深であれば、建物の再使用が困難な損壊が生じる割合は低くなる。

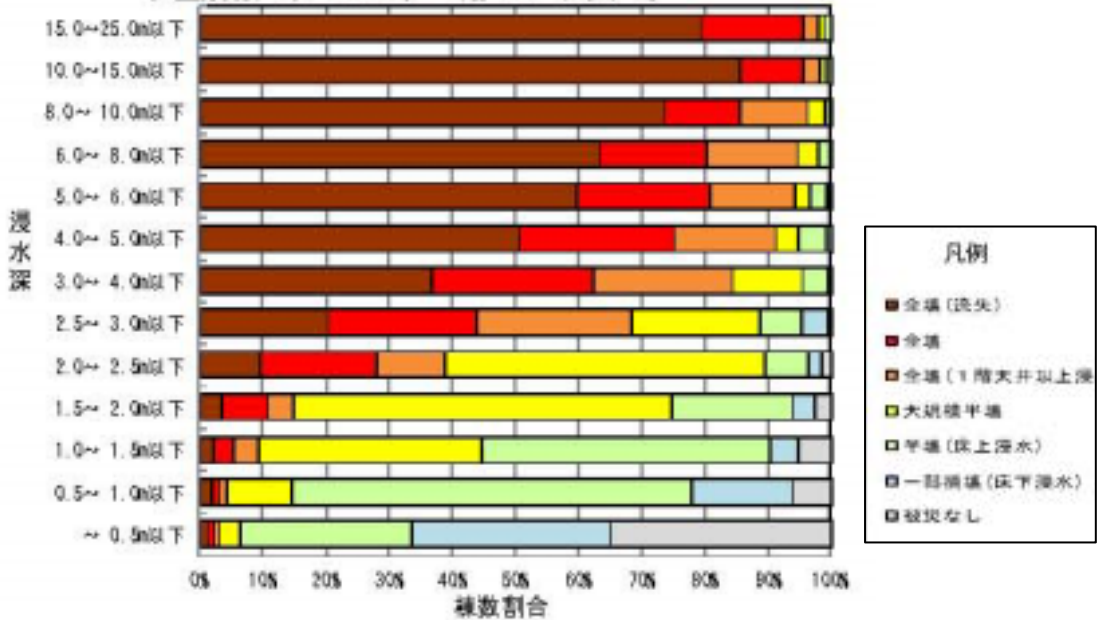
鉄筋コンクリート造の被災棟数割合



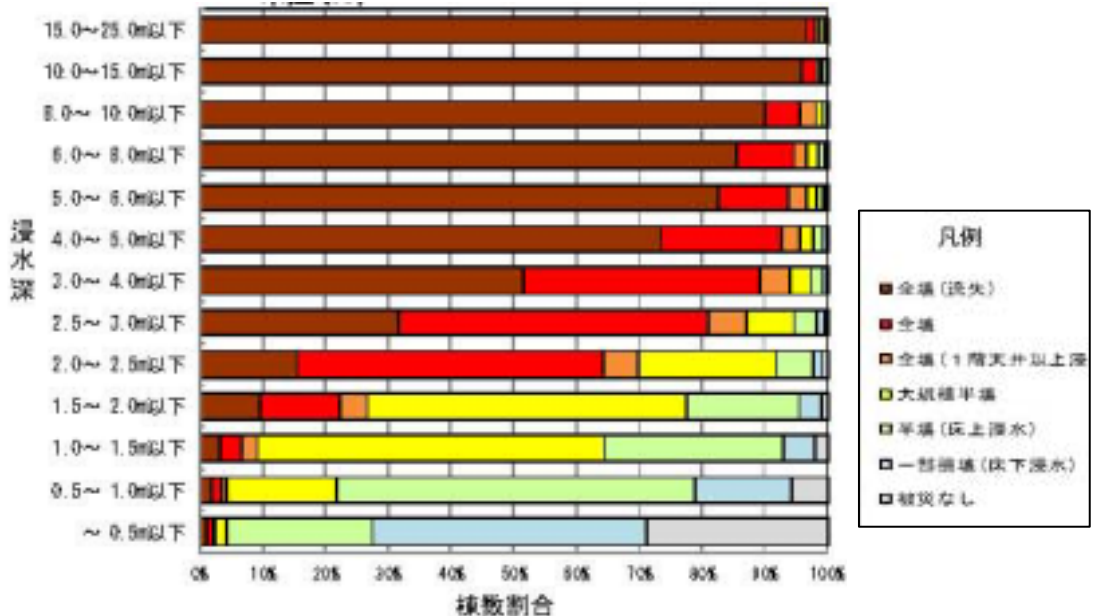
鉄骨造の被災棟数割合



軽量鉄鋼造(プレハブ)・土蔵・ブロック造等の被災棟数割合



木造の被災棟数割合



(3) 参考資料 2 東日本大震災による被災現況調査結果 H23.8.4 より

・建物被害区分の考え方

区分	全壊 (流失)	全壊	全壊 (1階天井以上浸水)
主な建物 状況	基礎だけ残して、建物が完全に流されている	主要構造が損壊しており補修により元通りに再使用することが困難	1階天井以上浸水しており、大規模修繕等による再使用も可能
サンプル 写真			
棟数 [※]	約 78,000	約 34,000	約 8,000
区分	大規模半壊	半壊 (床上浸水)	建物被災状況 (イメージ) 
主な建物 状況	床からおおむね1m以上(天井未満)浸水している	床から概ね1m未満の床上浸水(一部補修により再利用可能)	
サンプル 写真			
棟数 [※]	約 36,000	約 40,000	
区分	一部損壊 (床下浸水)	棟数合計	
主な建物 状況	床下の泥を取り除けば再利用可能		
サンプル 写真		被災建物総計	うち全壊
棟数 [※]	約 23,000	約 219,000	約 120,000